

平成28年度第10回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「土浦入り、冬の野鳥観察と渡り鳥の秘密」を実施しました。

開催日時：平成29年1月22日（日）午前10時00分から午後2時30分まで

開催場所：午前：土浦市手野町石田の霞ヶ浦湖岸とハス田の周辺

午後：霞ヶ浦環境科学センター

参加者：29名

平成28年度最後の霞ヶ浦自然観察会は、毎年1月に行っている野鳥の観察会を行いました。講師に雪入ふれあいの里公園所長の川崎慎二先生をお招きし、4年ぶりとなる土浦入りの霞ヶ浦湖岸周辺を観察地に行いました。

当日は風のない穏やかな晴天で、絶好の観察日和でした。今回が初めてのバードウォッチングとなる参加者も多く、観察地に到着すると、まずは双眼鏡の使い方や野鳥の探し方などを川崎先生から丁寧に教えていただきました。

一通りのレクチャーを受け、さっそくハス田の周辺から観察を始めました。まず目に入ったのはダイサギやコサギ、アオサギなどのサギ類です。じっと水面を見つめながら餌となる生き物が来るのを待っています。続いて人気者のカワセミがやってきました。少し距離は離れていたものの、長く同じ場所にとどまっていたため、じっくりと観察することができました。カワセミは漢字で“翡翠”と書くように陽に照らされて輝いていました。また上空にはノスリやトビなどの猛禽類も風をとらえて優雅に飛翔する姿が見られました。

続いて湖岸に移動して湖面や杭の上などにいる水鳥を観察しました。オオバンの大群やマガモやコガモなどカモ類の群れ、潜水するカンムリカイツブリ、杭で休むカワウなどが見られました。また遠くを航行する観光船のまわりには餌をねだるユリカモメの姿も見られました。カモ類の多くは昼の間は水面上に浮かんで休んでおり、日暮れ前になると水田やハス田に餌を求めて移動するそうです。最後にオオタカが湖岸脇の木の上にいるのが見つかりました。何度か飛び立ちましたが、同じ木に戻ってきてくれたため、全員で観察することができました。川崎先生によると2時間ほどの短い間にカワセミからオオタカまで見られるのはとても幸運なことだそうです。確認した野鳥も合計33種に上りました。

午後は霞ヶ浦環境科学センター内で、川崎先生から午前の観察の解説と冬の渡り鳥の代表であるカモ類の生態について教えていただきました。カモ類には大きく潜水採餌型と水面採餌型に分かれるそうです。霞ヶ浦に多い昼間休んでいるカモ類は水面採餌型です。昼休んでいる理由はカモ類が狩猟の対象であること、猛禽類などにも襲われやすいなどの理由からだそうです。また夜に目が見えにくくなることを“鳥目”と言いますが、実は鳥類は人間よりとても目が良いそうです。カモ類の繁殖、求愛についても教えていただきましたが、子育てはメスのみで行うこと、またつがいになる選択権もメスにあるそうです。繁殖に加われなかったオスは夏もさみしく居残ることもあるそうです。興味深いお話をたくさん伺いました。

今年度最後の霞ヶ浦自然観察会は大変充実した内容で締めくくることができました。参加者のみなさん、川崎先生、パートナーのみなさん、大変ありがとうございました。

来年度の霞ヶ浦自然観察会もたくさんみなさんのご参加をお待ちいたしております。

環境活動推進課 福井正人

< 観察会の一部を御紹介します。 >



川崎先生から野鳥の観察の仕方を学びました。



餌を待つアオサギの姿です。



ハス田の野鳥を観察しています。



冬のダイサギは嘴が黄色です。



杭の上にはたくさんのカワウがいました。



カモ類が休んでいます。



カワセミです！



川崎先生から興味深いお話をたくさん伺いました。

